

科目No.	共催講座PT211d	科目名	感染症総合管理1d				副題	感染症対策-ワクチンを中心に-			
連携機関名	国立感染症研究所	水準	中級	教室定員	35	配信定員	0	講義日時	火曜日18:30~20:30	拠点 (開講機関)	東京・戸山 (国立感染症研究所)
科目概要(300字)	感染症との闘いの為のヒトの生体防御の働き、および感染を予防する為のワクチンの効能、またワクチンの安全がどのように確保されているのかを説明する。又、その中で感染症研究の専門機関、特に国立感染症研究所が果たしている機能についても解説する。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
総論	1	感染と宿主免疫	感染(宿主-病原体関係)における宿主免疫応答とその医療応用に関して、病原体に遭遇した場合のヒトの免疫応答の基礎知識やワクチン等免疫介入治療・予防に関する応用面を概説する。	2017/9/5	国立感染症研究所 戸山庁舎 会議室	阿戸 学	阿戸 学	国立感染症研究所 免疫部部長
	2	次世代ワクチンの開発	ワクチンが何故効くのかその原理と投与方法の総論と次世代ワクチンの候補として粘膜投与型ワクチン、DNAワクチン等の作用メカニズムと効果、開発状況について紹介する。	2017/9/12			長谷川 秀樹	国立感染症研究所 感染病理部部長
	3	生物製剤の品質管理	ワクチンは健康な人を対象に予防目的で接種されるものである。であるがゆえに、有効性のみならず、安全性には特に注意しなければならない。一方、ワクチンは生き物を使って製造、試験しなければならないという特殊性についても紹介する。	2017/9/19			加藤 篤	国立感染症研究所 品質保証・管理部長
	4	感染症の予防とワクチン接種	ワクチンで予防可能疾患の国内及び国外の発生状況、我が国の現行ワクチン接種スケジュール、副反応等を概説し、感染症を予防する時のワクチンの重要性を解説する。	2017/9/26			多屋 馨子	国立感染症研究所 感染症疫学センター室長
	5	薬剤耐性と院内感染	今日、日本の医療現場では院内感染の事例が報告され、大きな社会問題となっている。院内感染の原因となる微生物や院内感染の防止対策について概説する。	2017/10/3			柴山 恵吾	国立感染症研究所 細菌第二部部長
各論	6	インフルエンザワクチン	通常の季節性インフルエンザとパンデミック・インフルエンザに対するワクチンに求められる特性には違いがある。現在我が国および海外で認可されているワクチンと両ワクチンとの関係およびワクチン株選定の過程について紹介する。	2017/10/10			板村 繁之	国立感染症研究所 インフルエンザウイルス 研究センター室長
	7	血液・体液を介して感染する肝炎ウイルス	血液・体液を介して感染する肝炎ウイルスとしてB型、C型肝炎ウイルスが知られており、慢性肝炎から肝硬変、肝癌の原因となるため大きな問題となっている。これらのウイルスの感染リスクと治療、ワクチンについて概説する。	2017/10/17			加藤 孝宣	国立感染症研究所 ウイルス第二部室長
	8	DPTワクチン	DPT疾患(ジフテリア・破傷風・百日ぜき)の国内および国外の現状とそれら疾患を予防する為に果たしてきたDPTワクチンの役割について概説する。	2017/10/24			蒲地 一成	国立感染症研究所 細菌第二部室長
	9	経口感染する肝炎ウイルス	経口感染する肝炎ウイルスとしてA型、E型肝炎ウイルスが知られており、発展途上国では現在も蔓延しているが、先進国でも時に流行が見られる。また、E型肝炎ウイルスはブタなどにも感染しており、生食等による感染の危険性もある。これらのウイルスの感染リスクと治療、ワクチンについて概説する。	2017/10/31			石井 孝司	国立感染症研究所 ウイルス第二部室長
	10	麻疹排除と麻疹ワクチン	麻疹の日本、並びに世界の現状、原因となるウイルスの性状、並びに麻疹ワクチンの開発の歴史、効果等を概説する。また、WHOが進める麻疹排除計画についても説明する。	2017/11/7			駒瀬 勝啓	国立感染症研究所 ウイルス第三部室長
	11	肺炎球菌感染症と肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌は、小児や高齢者に菌血症・髄膜炎などの侵襲性感染症や肺炎、中耳炎等をおこす。肺炎球菌ワクチンには小児用、成人用ワクチンがあるが、これらの特徴や臨床効果について概説する。	2017/11/14			金城 雄樹	国立感染症研究所 真菌部室長
	12	結核	結核とはどういう病気か、起因菌の結核菌の特徴およびBCG接種をはじめとする現在講じられている結核対策を含めて概説する。また、結核菌と近縁な菌によるハンセン病についても触れる。	2017/11/21			田村 敏生	国立感染症研究所 ハンセン病研究センター 室長
	13	水痘等のヘルペスワクチン	水痘・サイトメガロウイルスなどのヘルペス科ウイルスによる各種感染症および我が国で開発された水痘ワクチンの現状とその効用について紹介する。	2017/11/28			西條 政幸	国立感染症研究所 ウイルス第一部部長
	14	世界ポリオ根絶計画とポリオワクチン	WHOを中心にポリオ根絶計画が進められているが、その現状と問題点について、世界的な視点および日本の立場に基づいて解説する。とくに、ポリオ根絶最終段階における、ポリオワクチン戦略にかかわる諸課題について説明する。	2017/12/5			清水 博之	国立感染症研究所 ウイルス第二部室長
	15	ヒトパピローマウイルス	ヒトパピローマウイルス(HPV)は、性行為を介して感染し、子宮頸がんの原因となるウイルスである。近年、欧米にてHPVに対する感染予防ワクチンが開発され、我が国を含む全世界で導入されている現状を紹介する。	2017/12/12			柘元 巖	国立感染症研究所 病原体ゲノム解析研究センター室長

科目No.	共催講座 YB612b	科目名	狭山を学ぶ ものづくり編b				副題	グローバルブランドを目指す狭山茶の全てを学ぶ			
連携機関名	狭山商工会議所 狭山市	水準	中級	教室定員	40名	配信定員	0名	講義日時	火曜日18:30~20:30 実習(講義2・3・8・9)は土曜日 13:30~16:30	拠点 (開講機関)	埼玉・狭山 (狭山商工会議所・狭山市)
科目概要(300字)	狭山市は有名なブランドである「狭山茶」の産地である。狭山茶は狭山丘陵で栽培・生産されるお茶の総称で、江戸時代にはすでに江戸でブランド化されており、当時狭山はお茶の生産地域の北限でもあった。狭山市が市政を引くはるか昔から「狭山」という名前を使い、ブランド化してきた狭山茶の魅力と、その歴史と効能から説き起こす。そして、いま生産者を中心に取り組まれている課題や将来への「夢」を示し、現在の狭山茶の姿を明らかにする。これによって、より多くの人々が「狭山茶」を再認識し、今後の狭山茶のブランド力強化につながる。昔は「薬」であった「お茶」を深く良く認識する機会を提供する。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
開講式	1	開講式・狭山とお茶	開講式。古来お茶は中国から伝えられ、江戸時代は関東圏がその栽培の北限とされてきた。狭山市はその地域に位置し、古くからお茶の栽培が盛んで、「市」としての名称も昭和29年に市制を引いた時に「狭山市」とした。「狭山茶」を歴史的にとらえ、また、現在の産業として、さらに未来に向けての取り組みを本コースで学んでいく。	2017/9/26	狭山市産業労働センター 1階多目的スペース	狭山市産業労働センター 栗原博文 神部圭子	(未定)	狭山市
体験・狭山茶生産1	2	狭山茶はこうして作られる 1	茶業者の持つ1次産業としての「茶畑」、そこからの収穫後に、いろいろな加工を施す(2次産業)ことにより、お茶の付加価値を上げ、また、性格を変えてゆく。それら一連の流れを学ぶとともに、お茶の製造現場の取組を見学し、生産体験を行う。特に前半の体験は、生産現場である茶畑を視察・考察し、さらに、受講者が自ら茶葉の収穫を体験し、お茶の産業の第1次部分を体験する。	2017/9/30	実習 会場:横田園		横田泰宏	東阜横田園代表
	3	狭山茶はこうして作られる 2					横田貴弘	東阜横田園
狭山茶の歴史と効能	4	狭山茶の歴史 1	中国から伝来したといわれる茶が、中世から近世にかけてどのように日本国内に広まっていったのかを振り返りながら、江戸時代後期に誕生した狭山茶について学ぶ。	2017/10/3	狭山市産業労働センター 1階多目的スペース		高橋光昭	前狭山市博物館館長
	5	狭山茶の歴史 2	開国とともに急速に発達した狭山茶の生産について触れるとともに、紅茶やコーヒーの登場で国内消費に移行していった経過、機械化への取り組み、霜害に強い品種の登場などについて学ぶ。	2017/10/10			長谷川秀夫	NPO法人分析産業人ネット 委員
	6	お茶から始まる和食の文化と健康づくり	日本の伝統的な食文化、和食は、世界の無形遺産として登録されるなど再認識されてきた。食文化のルーツを知り、科学的見地から食品の機能(人体に対する食品の作用や働き、栄養機能、健康性・生体調整機能、嗜好・食感機能)の内、お茶から始まる和食の色彩・香り・食感を中心に和食の素晴らしさと、お茶の存在意義を検証し健康づくりに活用する。	2017/10/17			大森正司	大妻女子大学 教授
	7	お茶の効能と文化	「お茶」の食品としての効能や効果、そしてお茶を中心とする文化的活動などを講義する。	2017/10/24			横田泰宏	東阜横田園代表
体験・狭山茶生産2	8	狭山茶はこうして作られる 3	農産物であり生き物である「お茶」の知識を本コースで学んできた。それらを踏まえ実践としてお茶の生産を体験し、さらに、生き物である「お茶」のポテンシャルを発揮させ、美味しいお茶を楽しむためのルールを学び実践する。この後半の体験は、収穫後の茶葉をいかに加工するか、長い歴史の中で培われてきた加工の仕方により、茶葉の性格を変え付加価値をいかに付けるかを体験する。さらに、つくられたお茶の選び方や、より良い楽しみ方を体験する。	2017/10/28	実習 会場:横田園		横田貴弘	東阜横田園
	9	狭山茶をさらにおいしく楽しむために					平岡忠仁	平岡園
現在の狭山茶生産とその課題	10	狭山地域から世界へ	狭山丘陵で生産される「お茶」=「狭山茶」を生産販売する事業者として取り組む「狭山茶」作りと、アメリカ市場を見た生産者として感じた「世界の中での狭山茶」の可能性を語る。	2017/10/31			石田英希	石田園
	11	良い素材をよい製品に	お茶は第1次産業から第3次産業まで一貫した流れを持つが、製品としてのポテンシャルを決めるのは第1次の素材としての生産段階と、第2次の加工卸の段階の要素が大きい。農産物としての「茶葉」を加工することにより、その特色を発揮し、異なる「お茶」に仕上げていくうえでの技術・工夫や日々の課題を語る。	2017/11/7			植竹利光	清風園
	12	良い製品の拡大とブランド構築	同一地域で長い間積み重ねられた技術と工夫で生産され、加工され、製品となった「狭山茶」。長い歴史の中でブランド性を高めるとともにいかに良い商品として地域の人たちや愛好家に流通し、愛飲していただくか。また、さらなる消費拡大のためにいかなる工夫や新商品の開発に取り組むか。主に流通面からの「狭山茶」を語る。	2017/11/14	狭山市産業労働センター 1階多目的スペース		中津川人峰	狭山おもてなし計画代表
未来に向けての狭山茶	13	狭山茶と市民のおもてなしの取組	古くからのブランドである「狭山茶」、そして、茶の湯の文化の一つである「おもてなし」、近年の加速度的な国際化と、世界から興味を持たれている日本文化を踏まえながら、狭山市の魅力とおもてなしについて、狭山茶を基軸として創造し、発信していくことを目的に活動している市民団体として、「狭山茶のおもてなし」について皆さんと一緒に考えていくものです。	2017/11/21			吉田徹弥	狭山商工会議所青年部 副会長
	14	狭山茶と狭山のブランディング	日本のブランドとしての「日本茶」、世界の中で日本文化の一つである「日本茶」をどのように展開していくべきなのか。狭山市の若手経営者たちが挑むブランディングプロジェクトを紹介する。	2017/11/28			横田泰宏	東阜横田園代表
まとめ	15	まとめ・未来に向けて	本コースでは地域ブランドである「狭山茶」をいろいろな角度から、多くの人・視点で講義を積み重ねてきたが、このコースを総括して、今後の狭山茶の未来を示唆し、お茶の製品としての可能性や、文化としての可能性を模索する。	2017/12/5				

科目No.	共催講座JK454	科目名	環境基礎論				副題	市民の環境問題入門			
連携機関名	日本リスクマネージャネットワーク	レベル	基礎	教室定員	30	配信定員	0	講義日時	火曜日18:15~20:15	拠点 (開講機関)	大阪・千里山 (日本リスクマネージャネットワーク) 後援:関西大学化学生命工学部
科目概要(300字)	21世紀は環境の世紀といわれている。それは変わらないと思われてきた地球環境が大きく変化し、危機的ともいえる局面を迎え、人間と環境との係わりを根本から考え直す必要があるというメッセージである。人間は誕生以来、自然に働きかけ、生活に必要なものを手に入れてきた。産業革命以降、科学・技術の急速な発展により、生活は便利で快適になったが、他方で自然破壊や環境汚染が進み、人間を脅かすようになってきた。その象徴が地球温暖化問題である。これから環境問題について学ぼうとする市民や労働者に、生活の土台となる地球、水、大気、土壌について、また生活を豊かにしてきた化学物質などについて、最新のトピックや身近な関心事も交え、広く環境問題について講義し、共に考える。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取組み者	講師	所属
地球と環境	1	環境問題の歴史	環境問題を考える糸口として、時代の変遷を振り返りながら環境問題の全容を俯瞰し、講義全体を概観する。	2017/9/26	関西大学 千里山キャンパス 第4学舎 3号館 3202教室	宮崎 隆介	石橋 博	日本リスクマネージャ ネットワーク
	2	宇宙船地球号(1)	環境問題を考える上で基礎になる地球について知るために大気圏、水圏のしくみを解説する。	2017/10/3			宮崎 隆介	
	3	宇宙船地球号(2)	環境問題を考える上で基礎になる地球のしくみのうち、陸圏のしくみについて解説する。また、「生物多様性」とは何か、その重要性と現状を森と木の役割や林野庁の進める「木づかい運動」、「美しい森づくり国民運動」の紹介を通じて解説する。	2017/10/10			宇都 英二	
公害と環境	4	水質汚濁問題	水質汚染の歴史は産業革命にまで遡る。産業の発展と共に川や海が汚れ、人の生活に悪影響を与えてきた。水質汚濁対策の進展で現在では相当改善されてきたがまだ完全ではなく、新しい問題も起きている。水質汚濁問題を日本の状況を中心に、上水道への影響や下水道整備の話を変えて解説する。	2017/10/17			刑部 忠彦	
	5	土壌汚染問題	前半の基礎編では、「土壌汚染対策法」の目的を理解し、その施行状況を概観する。又、「用地及び組織の環境アセスメント:ISO14015」を用いて、事業への影響を決定するプロセスを解説する。次に後半の実践編では、複雑な土壌汚染問題のリスクマネジメントの実践から、その考え方を事例を交えて解説する。	2017/10/24			久保田 俊美 新田 恭司	
	6	大気汚染問題	4大公害裁判の一つ「四日市ぜんそく」から道路環境裁判までの概略と企業・行政の取り組みを述べ、大気汚染の歴史を振り返る。次に環境基準が未達成の「光化学オキシダント」の現状と要因の一つである「越境汚染への取り組み」を紹介する。最近話題の微小粒子状物質(PM2.5)や地球規模の大気汚染への取り組みも紹介する。	2017/10/31			西村 庄司	
	7	廃棄物処理問題	産業廃棄物と一般廃棄物、不法廃棄、焼却場、廃棄物処理場、ダイオキシン問題、住民運動、海外との関係など廃棄物処理問題の全般について行政の対応を踏まえながら歴史と現状について解説する。	2017/11/7			佐古 勇策	
地球温暖化	8	地球温暖化(1)	地球温暖化のみならず脅威は世界的な共通認識となり、その対策をめぐって国際的な交渉が続けられてきた。2015年12月にパリで新しい枠組みが決められ、日本政府も原発再稼働を前提に削減目標を提出した。これらの交渉の共通認識をもたらしたIPCCの報告(第5次評価報告書-AR5)について概説する。	2017/11/14			石橋 博	
	9	地球温暖化(2)	京都議定書を引き継ぐ新しいCO2削減の枠組みが交渉されている。国別の削減量が交渉の焦点になっているが、削減の仕組みについてはすでに京都メカニズム等考えだされており、2015/11協定を受けて協議も続けられる。私たち市民一人一人の取り組みについてもアイデアはある。地球温暖化の現実が待たない状況を迎えている中、地球市民として	2017/11/21			池田博幸	
化学物質と食	10	化学物質のリスク管理	化審法、PRTR制度、REACHなどの社会的な管理の仕組みを解説し、会員の仕事を通して化学物質の環境リスク管理について論じる。	2017/11/28			奥村 勝	
	11	食の安全・安心	食にまつわるリスクとは、生活に最も身近な環境リスクであり、生命に直結する問題でもある。農作物の栽培や家畜の飼育、或いは加工品の製造・開発の段階に始まり、輸送、防疫、保管、購入、更には調理及び摂取の過程に至るまで、極めて広範囲かつ多面的に発生するリスクについて概説し、対処の仕方についても紹介する。	2017/12/5			宮崎隆介	
社会の動き	12	最新の環境技術・環境ビジネスの紹介	豊かな生活を求めて発生させてきた環境問題をクリアするため、環境ビジネスは有望なビジネスとして期待されている。しかし、東日本大震災に続く原発事故は、安全神話と地球温暖化解決の切り札を御旗に原子力発電へ依存を高めてきた日本の環境政策をぐらつかせている。環境技術の果たすべき役割について一緒に考える。	2017/12/12			(未定)	
	13	環境法の動き	各講義で出てくる個別法の話をもとめる観点から、主要な環境法の歴史と概要を紹介する。また、日本の法律の歴史的变化と最新の体系、主な国際法規や海外法規の動向についても紹介する。	2017/12/19			砂川 辰彦	
	14	企業の社会的責任(CSR)	市民の側から企業社会との付き合いを考える視点から企業の社会的責任(CSR)について世界の歴史的背景に触れながら、CS・環境会計・ISO認証取得、CSR報告書など企業の社会的責任(CSR)の現状について解説する。	2018/1/9			古沢 啓一	
まとめ	15	持続可能な社会(循環型社会/低炭素社会)を目指して	持続可能な社会を実現するためには現実の困難な課題が多くある。講義全体のまとめとして、社会で問題になっている話題を取り上げ、立場の違いをどう乗り越えればいいのか、受講者、講師一緒に考える。	2018/1/16			宇都 英二	

科目No.	共催講座JK131b	科目名	防疫薬総合管理				副題	身近な生活・環境害虫防除—世界をリードする防疫薬と害虫防除技術—				
連携機関名	日本環境動物昆虫学会	水準	中級	教室定員	30	配信定員	0	講義日時	月曜日18:15~20:15	拠点 (開講機関)	大阪・千里山 (日本リスクマネジネットワーク) 後援: 関西大学化学生命工学部、日本家庭用殺虫剤工業会	
科目概要(300字)	熱帯病による死者は、近年でも全世界で年間500万人に達している。その最大の原因はマラリアで、その他にウエストナイル熱、日本脳炎、黄熱病、デング熱などがあり、いずれも蚊媒介性疾患である。マラリアによる死者は今でも毎年60万~100万人と報告されている。対策としては、おもに殺虫剤を家屋内に残留処理することやピレスロイド殺虫剤を含有させた蚊帳などの使用でベクターである蚊を防除することである。また、近年の人々の移動のグローバル化で、ある地域の熱帯病であったのが、容易に他国に伝播する事態も増えている。一方、都市化が進み、風土病、熱帯病が減少した先進地域では人々の快適な生活を維持するために、不快害虫などを防除することが不可欠になっている。これらの防除にはピレスロイドなどの安全な殺虫剤が使用されており、これらの薬剤開発では日本が常に世界をリードしてきた。このような防疫薬・家庭用殺虫剤などについて、社会的役割、薬剤開発、使用技術の改良、安全性の確保および技術革新などについて解説する。											

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
昆虫と人間生活	1	歴史を変えた昆虫たち	昆虫が地球上に現れたのは、約4億年前であり、ヒト(猿人)が誕生したのは、約500万年前といわれる。ヒトは誕生した時から必然的に昆虫類と関わりながら生きてきた。ここでは、昆虫類が歴史上偉大な人物や大きな事件に影響を与えた事例について述べ、昆虫と人間がこれまでにどのように関わってきたかを解説する。	2017/9/11	関西大学 千里山キャンパス 第4学舎 3号館 3202教室	安部 八洲男	安部 八洲男	大阪青山大学 健康科学部
害虫の生態と防除	2	衛生害虫の生態とその防除策	虫が媒介する感染症はいろいろある。日本で最も有名なのは蚊が媒介する日本脳炎であるが、海外旅行すると虫が媒介する感染症にかかるリスクが増大する。近年周辺諸国で流行が見られる虫が媒介する主な感染症を紹介する。	2017/9/25			平野雅親	(元)住友化学
	3	不快害虫、その他の害虫の生態とその防除	人が生活している環境には衛生害虫以外にもいろいろな害虫がいる。気持ち悪い、臭い、刺されると痛いなどの不快害虫。衣服を食害する衣料害虫など。それから、最近、外国から侵入して来た外来害虫。これらの虫の被害とその対策について紹介する。	2017/10/2			田中 豊一	ダスキン
	4	害虫の生態を利用した駆除	食品衛生害虫の代表としては、飲食店の厨房や一般家庭の台所に出没するゴキブリが挙げられる。また、家屋害虫の代表としては、家屋・建造物などの木質部を食害するシロアリが挙げられる。これらの害虫を中心として、害虫の生態、習性を利用した防除法の考え方や実例を紹介する。	2017/10/16			(未定)	日本家庭用殺虫剤工業会
家庭用殺虫剤	5	家庭用殺虫剤の製剤の特徴と使い方	近年、WHOは感染症媒介害虫の防除にPrimary Health Care (PHC) の重要性を再認識し、推進している。このPHCの中心にある家庭用殺虫剤について、製剤・製品の変遷、並びにそれらの特徴と正しい使い方について概要を述べる。	2017/10/23			引土知幸	大日本除虫菊 中央研究所
	6	家庭用殺虫剤の開発とその背景	過去に市場に上市された商品について、①時代背景、②開発の経緯、③開発の課題、について幾つかの事例を基に概要を解説し、家庭用殺虫剤の変遷を紹介する。	2017/10/30			森 達哉	住友化学 健康・農業関連事業 研究所
殺虫剤の化学	7	防疫薬発展の歴史とその役割	農業(殺虫剤)使用の歴史を概説し、過去における殺虫剤の問題点およびそれを踏まえた殺虫剤(防疫薬)の発展の歴史とその役割について説明する。農業の発明・開発・上市の流れについても解説する。	2017/11/6			竹林 禎浩	住友化学 ベクターコントロール部
	8	世界をリードしたピレスロイド殺虫剤	除虫剤に含まれる殺虫成分(ピレスロイド)の安全性を維持しながら構造を改変したピレスロイドは人やベクター(疾病媒介昆虫)コントロールに無くてはならない存在となっている。人類にとってかけがえのないピレスロイドの発明の経緯について化学構造の変換および効力の特徴の観点から説明する。またどのように発明がなされたのかについても解説する。	2017/11/13			庄野 美德	住友化学 生活環境事業部
製剤とその利用技術	9	製剤化の意義と家庭用殺虫剤の特徴と使用方法	家庭・防疫薬分野においては、新しい特徴を有する有効成分の発見に伴い、その効能を最大限に発揮するために、今まで各種製剤が提案されてきている。主として殺虫剤における製剤化の意義と、代表的な家庭用殺虫剤に関する基本技術について解説する。	2017/11/20			藤本いずみ	京都大学 生存圏研究所
	10	その他の製剤と新規製剤の特徴と使用方法	家庭・防疫薬分野においては、新しい特徴を有する有効成分の発見に伴い、その効能を最大限に発揮するために、今まで各種製剤が提案されてきている。主として殺虫剤における製剤化の意義と、代表的な家庭用殺虫剤に関する基本技術について解説する。	2017/11/27			池尻 幸雄	イカリ消毒株式会社 技術研究所
ベクター防除技術	11	世界をリードするオリセツネット(防虫蚊帳)	マラリアは、アフリカにおいて貧困の大きな原因となっている。1998年にWHOが中心となり、2010年までにマラリアの脅威を半減することを目的としたロールバックマラリアキャンペーンが開始された。そこで、感染予防の有力な手段として使用されているオリセツネットの開発の経緯、マラリアコントロールの現状、今後の展望等について解説する。	2017/12/4			尾崎 圭介	住友化学 生活環境事業部
木材害虫	12	木材害虫防除	主として木造建造物の主要害虫であるシロアリや、近年被害が増加しているヒラタキクイムシ類について、その生態や被害等状況を紹介します。更に、その防除方法についても解説する。	2017/12/11			安部 八洲男	大阪青山大学 健康科学部
害虫防除の実際	13	薬剤による害虫防除の課題とPCO(害虫防除専門家)の取り組み	PCO(Pest control operator, 害虫防除専門家)がどのような場面で害虫防除に薬剤による防除を選択し、どのような課題を抱えているのかについて、30年間害虫防除に携わってきた経験をもとに述べる。また、今後どのような薬剤が求められるのかについてもPCOの立場からのべる。	2017/12/18				
安全性	14	防疫薬の登録と安全性	防疫薬の登録について述べる。日本(薬事法、化審法、毒劇法など)をはじめ、米国EPA(FIFRA)やEU(EUBPD)、その他世界各国の防疫薬登録制度について説明する。また、防疫薬を使用する消費者の安全性を担保するために必要なデータと意義、消費者リスクの評価法について解説する。	2017/12/25				
総合防除	15	問題点と今後の方向	人々の生活の都市化や、住宅構造、生活様式などの外部環境の変化や、化学物質の安全性に対する意識の増加などから、防疫薬に対するニーズも変化し、それに対応して防疫薬も変革が必要とされる。ここでは、防疫薬が抱えている今日の問題点と今後の方向について考え、総合防除(IPM)の考え方についても述べる。	2018/1/15				

科目No.	共催講座CT574a	科目名	法学入門a					副題	実践的考察を通じたリーガルマインドの涵養			
連携機関名	お茶の水女子大学 ライフワールドウオッチセンター	水準	基礎	教室定員	30	配信定員	0	講義日時	水曜日18:30~20:30	拠点 (開講機関)	東京・お茶の水女子大学 (お茶の水女子大学ライフワールドウオッチセンター)	
科目概要(300字)	現代人にとって法律の基礎的素養は不可欠である。本講座は、法学の学習経験のない社会人・学生を原則として想定する。法律の学習に際しては、具体的な状況を想定しつつ、そのなかで基本的な法理を理解しよう試みるのが望ましい。本講座では、個人の生活の各場面での法律関係をとりあげながら、そのなかで基本的な法律(民法、会社法など)の考え方を学ぶという方法を試みる。条文を参照しながら説明するので、受講に際しては六法(小型のもの。最新版でなくてもよい)を携行のこと。なお、講義の順序・内容の一部を変更することがある。											

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
はじめに	1	法・法律とは何か	法と法律の概念、社会における規範のなかでの法律の役割、各種の法律の体系、裁判の役割、民事訴訟の仕組みなどについて考察する。	2017/10/4	お茶の水女子大学 共通講義棟 1号館101番 教室	栗原 脩	栗原 脩	弁護士(元日本興業銀行取締役証券部長)
民法	2	民法の概略、物(動産・不動産)	民法の体系、物権と債権の基礎概念、所有と占有などについて説明する。	2017/10/11				
	3	売買	売買の法理、売買契約の基礎、売買と交換などについて説明する。	2017/10/18				
	4	賃貸借・使用貸借	賃貸借と使用貸借の概念、賃貸借契約の基礎、賃貸借を巡る法律問題などについて説明する。	2017/10/25				
	5	借入れと担保	お金の貸し借り(金銭消費貸借契約、利息制限法など)、担保の役割(人的担保、物的担保)、代表的な担保権(質権と抵当権)、譲渡担保などについて説明する。	2017/11/1				
	6	請負・委任・寄託	請負の法理と実際(住宅の建築の例など)、委任の役割と当事者の義務、寄託の法理などについて説明する。	2017/11/8				
	7	契約の法理	各種契約の例を参照しつつ、民法総則の関連部分(意思表示、代理、時効など)、契約に関する法理(契約の成立プロセス、契約の履行、債務不履行、解除など)を考察する。	2017/11/15				
	8	契約の法理(続)、不当利得、不法行為	契約に関する法理の説明に続き、不当利得とは何か、不法行為と損害賠償責任などについて説明する。	2017/11/22				
	会社法	9	株式会社の基礎概念	共同で事業を行う場合の組織形態、株式会社の基本原理とその特徴、株式会社の設立(手続、法人格の取得)などについて考察する。				
10		株式	株式の基本的な仕組みについて説明する。	2017/12/6				
11		株式会社の機関	株主総会、取締役・取締役会、監査役(会)などについて説明する。	2017/12/13				
12		資金調達、組織再編	資金調達(増資、社債発行など)、組織再編(合併、会社分割など)について説明する。	2017/12/20				
金融商品取引法	13	投資と法	金商法の目的、ディスクロージャー制度などについて説明する。	2018/1/10				
	14	投資と法(続)	不公正取引の規制、金融商品取引業者等の規制などについて説明する。	2018/1/17				
労働法	15	会社と個人	会社の従業員(労働者)としての個人、労働法の意義と体系、労働法における基本的な法理について説明する。	2018/1/24				

科目No.	共催講座AT234	科目名	生物総合評価管理学				副題	農作物の品種改良が世界を救う			
連携機関名	農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門	水準	中級	教室定員	30	配信定員	0	講義日時	土曜日13:00~17:10	拠点 (開講機関)	東京・お茶の水女子大学 (農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門・ライフワールド・ウォッチセンター(協賛))
科目概要(300字)	私たちが日常食している農作物や畜産物は、様々な改良が施され食料の安定供給に貢献してきた。1996年より遺伝子組換え農作物の本格的な商業栽培が開始され、その利用が急速に拡大し、すでに遺伝子組換え農作物は我々の食生活に不可欠なものになっている。育種の歴史と遺伝資源の重要性を紹介した後に、ゲノム研究等の成果がどのように利用されていくか、遺伝子組換えや新しい育種技術により画期的で魅力的な農作物や樹木、カイコ等が育成される可能性を紹介する。それは農業への貢献だけでなく健康問題等を含め、人類が直面する様々な問題を解決するための1つの重要な技術であることを紹介する。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字以内)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
品種改良の歴史	1	農耕の起源と品種改良の歴史	人類は2万年ほど前から定住生活をはじめ、約1万年前より作物の栽培を始めた。農耕の起源を考えながら、品種改良にまつわる様々なエピソードを交えて、品種改良の歴史を俯瞰する。また、本講座のオリエンテーションとして、本講義の全体について紹介する。	2017/9/30	お茶の水女子大学 本館124号室 (12月9日のみ理学部1号館401号室)	田部井豊	田部井豊	農業・食品産業技術総合研究機構
	2	国内在来種の保存と利用	人々は在来の作物を栽培し、それをもとに品種改良を行ってきた。在来種の多様性とその利用の歴史について概説する。				大澤良	筑波大学
遺伝子組換え	3	遺伝子組換え生物の安全性評価と国際的動向	遺伝子組換え農作物については、生物多様性への影響や食品、飼料としての安全性について、厳しい評価が求められている。安全性評価の歴史と国際的な議論の経緯、それを踏まえた日本の安全性評価システムと、実際の評価について解説する。	2017/10/21			田部井豊	農業・食品産業技術総合研究機構
ゲノム研究	4	ダイズ育種の世界を変えろ	ダイズは世界で最も重要なマメ科作物である。これまでのダイズ育種と成果などを紹介するとともに、ダイズの収量性や種子成分などの複雑な遺伝様式を持つ形質を改良するために、近年、ゲノム情報の利用が進められている。突然変異体とゲノムワイド関連解析を用いた新しいダイズの育種法について紹介し、今後のダイズ育種について考える。				津田麻衣	筑波大学
遺伝子組換え	5	遺伝子組換え技術と世界的な利用状況	遺伝子組換え技術の誕生と植物への利用について紹介するとともに、現在、世界的に栽培されている遺伝子組換えの作物の実際の状況や、遺伝子組換えパパイヤやゴールデンライスの開発について紹介する。	2017/10/28			田部井豊	農業・食品産業技術総合研究機構
	6	葉緑体形質転換の可能性	葉緑体への遺伝子導入には、核への遺伝子導入とは異なるメリットとデメリットがある。メリットとしては大量のタンパク質を作れる優秀な植物工場として利用できることである。そのメカニズムとともに今後の利用について概説する。				奥崎文子	玉川大学
	7	無花粉スギを作る	スギ花粉症問題解決のために、無花粉スギの選抜と遺伝子組換え技術による無花粉スギの作出について述べるとともに、これまでに林業分野における問題とその取組みを概説する。	2017/11/18			小長谷賢一	森林総合研究所
	8	スギ花粉症を治すコメを作る	コメを食べて「スギ花粉症を治す」。花粉症患者の方には夢のような話を、そのメカニズムや実際に症状が軽くなった人の話を交えて紹介する。また植物の形をした薬はどのようにして実用化されようとしているのか…その一部を紹介する。				高木英典	農業・食品産業技術総合研究機構
9	機能性農作物の開発と商業利用へ向けた課題	遺伝子組換え技術で健康機能性等を改良したものを第2世代の遺伝子組換え農作物という。ビタミンAを増強したゴールデンライスやスギ花粉米なども相当するが、本講義はさらに多様な機能性作物について紹介する。特に血圧調整や血糖等の調整を可能にするなど将来的に実用化が望まれるような新規の機能性作物を紹介する。	2017/12/2	若佐雄也				
10	遺伝子組換えカイコの開発と実用化に向けて	2000年にカイコの遺伝子組換え技術が開発されて17年、すでに検査薬や化粧品等の生産での利用が始まり、さらに蛍光シルクを作る遺伝子組換えカイコの実用化も近づいている。これまでのカイコ育種の成果と、遺伝子組換えカイコの開発や一般養蚕農家で飼育するための規制対応について概説する。		河本夏雄				
機能解明	11	ネムリユスリカの乾燥耐性とその応用	ネムリユスリカは凄い。乾燥耐性や放射線などの耐性は他の生物では見られないほど強い。そのメカニズムを紹介するとともに、利用について概説する。	2017/12/9			志村幸子	
新しい育種技術	12	新しい育種技術の紹介と研究及び実用化への取組(1)	新しい育種技術には、ゲノム編集、シスジェネシス、世代促進技術など多くの技術が含まれた総称となっている。主要な技術について解説し、それによって何が作り出され、私たちの暮らしにどのように役立つかを概説する。本講義ではゲノム編集を中心に紹介する。		2017/12/16	田部井豊		
	13	新しい育種技術の紹介と研究及び実用化への取組(2)	新しい育種技術には、ゲノム編集、シスジェネシス、世代促進技術など多くの技術が含まれた総称となっている。主要な技術について解説し、それによって何が作り出され、私たちの暮らしにどのように役立つかを概説する。本講義ではゲノム編集以外の新しい育種技術について紹介する。					
	14	新しい育種技術(NPBT)の規制問題を考える	ゲノム編集や世代促進技術など、植物における新しい育種技術(NPBT)により品種改良の世界が大きく変わってきた。NPBTで作出され農作物がGMOか非GMOかにより商業利用が大きく異なる。NPBTの研究開発や規制問題について世界的な動向を紹介する。					
これからの育種	15	世界が直面している問題に品種改良はどのように答えるか	世界的な「気候変動」による新たな病害虫の発生は、今後の農業生産上、最も憂慮される問題である。今後の農業生産の問題を概観しながら、今後の遺伝子組換え技術で対応できることを考える。また、遺伝子組換え農作物を利用するために非組換え農作物との共存と消費者の理解が必要であり、共存とサイエンスコミュニケーションについて考える。	2018/1/6				